

木が立派に育つ青森県の気候風土こそ財産



ものづくりの「喜び」を  
醍醐味知る大工に育てる

「木は山で真っ直ぐ育つが、育ちにくいのが人だ」。山を歩きながら大山重則会長（株大山建工）が話す。100年物のスギやアカマツが並び立つ4haのこの山（五戸町、大山会長所有）には10年前に1度訪れている。林全体に「重み」が増したように感じられるのは、木の1本1本が10年分ずつ太く高く成長した全体から受ける印象だろう。「大工を志して良かったと後で思えるように新人たちを『本』で紹介してほしい」「思い悩んで振り返ったときに励みになるように」。今年（2020年）大山建工に入社した4人に向けて会長の眼差しは、木の成長を見守る親心だ。

五戸町から全国へ搬送  
「素晴らしい木」と評価

青森県の山で育った木を全国の建築現場へ送り出している拠点が、五戸町にある（株）大山建工の本社の木材加工センターだ。南部アカマツやヒバやスギやクリなど樹種豊かで良木がそろった青森県産材。九州・博多の料亭『嵯峨野』（2012年竣工）へも、木材はここで加工され、トラックで陸送された。京都の徳寺瑞宝院餘慶庵（2018年竣工）も、東京・深川の慧然寺の庫裏・書院（2018年竣工）もそうだ。建てた先々で「青森の木は素晴らしい」という評価の声が高まっているのだ。

南部アカマツを丸太梁にして組んだ伝統工法の「木組み」と、数寄屋建築の情趣が融合し



次の現場で使われる木材が加工センターで“木作り”される

た「大山の家」。建築家の前田伸治氏（前田伸治十暮らし十職一級建築士事務所代表、伊勢市）と一緒に全国で展開している。そのシンボルが、八角形のアカマツの丸太梁だ。

新人4人の取材に訪れた日、加工センターでは、次の現場に使われる八角形の丸太梁が順番を待っていた。運ばれる先は鎌倉市（神奈川県）だ。現場が



青森の山で育った木を全国の建築現場へ送り出している大山建工本社の木材加工センター

始まれば、若手筆頭の細越克憲  
大工を棟梁とする“大山の大  
工衆”は、宿舎に寝泊まりしな  
がら仕事をすることになる。

この加工センターで「茶室」の  
構造見学会が開かれたのは、昨  
年（2019年）7月。建築を  
目指す大学生や工業高校生な  
どを対象に“本物の建築を学ん  
でほしい”と大山建工が開催し  
たもので、新千歳空港国際線  
ターミナルビルの高級ホテルに  
建てる「茶室」を、着工前に仮組  
して公開した。このときの見学  
会が、新人との“縁結び”になっ  
ていた、とはこの後、取材して  
知った。

### 大工を目指す抱負語る

「ここに集まって〜」

大山会長の前に集まった4  
人が新人だ。そろって大山建工  
のネーム入りの作業着姿。表情  
がいかに初々しい。

「茶室」見学して“すごい”

村上海都さん（21歳）の話 出身



村上海部さん

は岩手県の安代町(合併して八幡平市安代町)です。高校を卒業して2年間、二戸高等技術専門学校に通いました。去年の夏に、大山建工の茶室の構造見学会に、学校(専門学校)がバスで連れ

てきてくれました。「茶室」を見て、何がどうすごいのかはよく分かりませんでしたけど、とにかく「すごい」ということだけは伝わってきました。そのことが大山建工に就職したいと思うきっかけになりました。

茶室は日本の伝統建築だし、京都が本場だし、それを、八戸の工務店が受注して、北海道の空港のホテルの中に建てるというのはすごいことじゃないかと。大手ゼネコンの下請けじゃなく、元請けで、自社の大工が北海道に行つて建てるというのはすごいことじゃないかと。

そういう技を持った大工がいるというのはすごいことだと思います。そういう大工になりたいです。

\*

昨年の茶室の構造見学会に参加したのは八戸工業大学、弘前工業高校、青森県立むつ高等技術専門学校、岩手県立二戸高等技術専門校の4校から41人。「歴史ある茶室の伝統技術に触れた体



木材加工センターに仮組みされた「茶室」の構造見学会(2019年)



新千歳空港国際線ターミナル併設の高級ホテルに設置された茶室



“大山の大工衆”が青森県産材で建てた福岡の館店(2020年竣工)。杉の一枚物で作ったカウンターが見事



験が、建築を目指す皆さんの励みになれば」と大山慎司社長があいさつ。公開後、茶室は一旦解

体され、新千歳空港へ運ばれた。茶室の完成を報じた東奥日報の見出しが、「県産木材で優美な

茶室 大山建工が新千歳空港の  
ホテルに建築(2020年5月  
19日付)。それによると、北海道  
の新千歳空港国際線ターミナル  
併設の高級ホテル内に建築を進  
めていた茶室が完成した。20  
20年2月にオープンした「ポ  
ルトムインターナショナル北海  
道」の4階に設置。茶室は、小間  
(8坪)、水屋、広間、大広間、立  
礼からなる。建物の合計面積は  
約185㎡。日本の伝統文化を  
外国人客などに伝える目玉施設  
として建てられた。(立礼は、  
テーブル式で行うお茶席)

\*

### 「会社で面倒みる」力強さ

工藤優大さん(18歳)の話 弘前  
工業高校の建築科を卒業しまし  
た。自分も、今話に出ました。茶  
室の構造見学会がきっかけで大  
山建工に就職を決めました。建  
築科の科長(先生)が、実は大山  
建工と、もう1社、地元の工務店  
を薦めてくれていたんですけど、  
「茶室を作れる工務店つて素晴  
らしいし、県内にはそんなにない



工藤優大さん



はずだし、そういう技術のある大  
工を抱えた工務店に入れば学べ  
るだろうと思いました。それもあ  
りましたけど、一番の決め手は、  
その茶室の見学会の後で、大山社

長に(就職のことを)直接聞いて  
みたんです。そしたら、社長が、  
「二人前になるまで会社で面倒み  
るよ」と言われたんです。その力  
強い一言が決め手でした。大工を  
育てようという会社の期待に応  
えたいです。

### 3時間もの社長の 講義

橋本圭太郎さん(21歳)  
の話 おいらせ町の出  
身です。21歳です。大工  
になりたくて、高校を卒  
業して青森県立弘前高  
等技術専門校に通いま  
した。大山建工に決めた  
のは、大山社長の「講義」  
を聞いたのがきっかけで

す。学校(専門学校)に来て、大山  
建工の会社のことか建築のこ  
ととか、いろいろ話してくれま  
した。3時間もです。他の工務  
店は求人パンフレットしか置  
いていませんでしたけど、大山  
社長は、わざわざ来てくれて、  
しかも3時間も熱心に話して  
くれたんです。最後に、「当社に



橋本圭太郎さん



来て働いてみませんか」と。大  
工を育てることにすごく熱心  
だなと感じました。それを聞い  
て、決めました。プレカットじゃ  
なく、墨付けして、ノミで削る  
という、一から自分で作るのと  
ころも大山建工の家づくりの  
魅力です。技術を身に付けたい  
です。



富沢仁之祐さん



### ラグビーのガッツ精神

富沢仁之祐さん(18歳)の話 青

森市の高校を卒業して、入社しました。ラグビー部の部活の先生が、大山建工を強く薦めてくれたんです。その先生が五戸町出身の先生で、大山社長と知り合いだということでした。ラグビーで鍛えてくれた先生が薦

めるのなら間違いありません。以前から大工になりたいって思っていましたから、ちょうど良かったです。来年からは八戸の職業能力開発校に通わせてくれるそうです。ラグビーのガッツ精神でぶつかっていいこうと思います。

——先輩として新人たちへひと言葉。と言います。

**細越克憲大工の話** 私は18歳

で大山建工に入社しました。もう18年になります。その間、波風なくやってきたかと言うと、私にもありましたよ、辞めようと思ったことが。最初は3年目でした。先輩大工が引き止めてくれました。相談したら、辞めてどこに行っても同じだとか、別のところに行つたつて嫌な人もいれば嫌なこともある、新しい職場に行けば新しい環境になるような気がするけど最初だけで踏ん張つて頑張れ……とかね、確かそんなことを言われましたよ。素直に聞いて良かったと

思っています。結局、今もこうして大山建工で働いているのは「大工が好き」だからなんです。

ものづくりをする大工という仕事かね。悩みはこの職場でもどんな仕事にでも付きものでしょう。京都の料亭『嵯峨野』にしても、東京の「慧然寺」の庫裏・書院にしても、それから最近では新千歳空港の「茶室」も、大山建工の大工でいたからこそできた仕事なんです。完成したときの喜びは格別でした。

新人たちにも、私と同じに「3年目の波」がやってくるでしょう。そこを乗り越えてもまた波は来るけど、耐えることです。留まって、先に目を向けることです。私も、大山建工に留まったから茶室とか数寄屋建築の仕事ができるようになったんです。すごい先輩大工の中里(政義)棟梁がいるんです。目標にしているんです。そういう棟梁のもとで働けることがどれだけ恵まれたことなのかは、10年頑張れば分かってきます。

### 県にコースターを寄贈 五戸産の150年杉に感嘆

「青森県産の木が素晴らしいと褒められるのは、地元じゃなく、他県なんです」と大山会長は残念がる。「身近なものが評価されず、遠くの方が良く見えるのは「木」に限ったことではないが、せつかく豊かにある青森の「素晴らしい」木の評価は地元でこそもっと高まってほしいものです」

青森県林政課に150年杉で作製したというコースターを寄贈した(2020年7月)のも、そうした願いからだ。

「青森県にはこんなに素晴らしい木があるという認識を、林政課の職員の方々と共有したい思いで寄贈することになりました」

東奥日報はこのことを、「木目美しいコースター 五戸産・樹齢150年の杉で作製」の見出しで報じた(2020年7月30日付)。NPO法人「あおも



青森県林政課にコースターを寄贈する大山慎司社長(左)、大山重則会長(中央)、受け取る比内一道課長(右)



樹齢150年の杉で作製した美しい木目のコースター

りの木で地域を支える伝統と技術の会」(大山重則理事長)が、県産木材の価値へもつと目を向けてもらおうと、五戸町の樹齢150年ものの杉を使いPR用のコースターを作製した。細やかで美しい木目が特長。県林政課へ1000枚寄贈し有効活用を要望した」

コースターは10cm四方の大きさで、柔らかな赤みの表面に、きめ細かな柾目が真つ直ぐに通っている。大山会長は、「柾目よりももつと緻密で美しい柾目ですね。九州の博多の料亭『嵯峨野』に使った天然杉並みの残材を利用して作ったのです。1

mm間隔に細い線を引いたように目が詰まっています、捨てるどころがありません。五戸町手倉橋の山で育ったスギです。九州にはありません」

比内一道課長は寄贈に感謝した上で、「九州ではスギは35年で伐採してしまいます。気候が温暖で成長が早いから、間伐しないで、35年で伐つて山から出してしまおうのです。青森では寒い分生長が遅いから伐採するのは早くても45年かかります」。その違いが細やかな本目となってコースターに表れている。

比内課長は、「県内に素晴らしい木材があることを職員、森林所有者、県民に再認識してもらうようなイベントなどでも配布してPRしていきたい」と述べた。

## 木が太く高く良く育つ 青森の気候風土も財産

加工センターから車で5分の近場に大山会長が所有する「山」がある。10年前、「本」(「青



大山会長所有の山に真っ直ぐ伸び立つ100年物のスギ  
(左)同じ山に育つアカマツ



森県産材で「エコな家づくり」の巻頭に書く「南部アカマツ」の取材で訪れた。ナタを腰にぶら下げ長靴で歩いていく大山会長「眺めただけでは木の大きさは分かりません。抱き付いてみれ

ば胴回りの太さが実感できるんです。目にははつきり分からなくても、手を回してみれば10年分の成長が伝わってきます」7月下旬(2020年)、九州・博多に「鮎店」が完成した。施主の鮎職人が料亭『嵯峨野』

に行つて、木材の素晴らしさと大工の技に感嘆し、大山建工に依頼したのだ。「その鮎店の現場へも、こっちの山のスギを運んだんです。素晴らしい木を育てる青森県の気候風土こそ財産だね」

そういう目で見れば、ひと抱えもあるスギやアカマツが真っ直ぐに伸び立つこの山は「宝の山」だ。見上げながら大山会長が、



「ものを作り上げたときの喜び  
は大工が一番知っている。それ  
が大工の醍醐味なんだ。そうい

う大工になってほしい」  
山の木に語りかけるように、  
新人たちへエールを贈った。

ものを作り上げたときの喜びや醍醐味を感じる大工になってほしいと新人たちへエールを贈る大山会長

真心の住みやすさ

## 株式会社 大山建工

本 社 ● 三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1  
TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454

本 部 ● 八戸市大字河原木字千刈田7-1  
TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033  
<http://ooyamano-ie.jp/>

内舟渡常設展示場 ● 八戸市長苗代字内舟渡84-13 産業道路沿い  
TEL.0178-21-3055

盛岡営業所・展示場 ● 盛岡市厨川1丁目21-30  
TEL.019-601-7311 FAX.019-601-7134